

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	セオリー		授業形態/必・選	講義	必修
	ベーストセオリー			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ベースコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経験13年 学生時代に複数のコンテストで最優秀賞を受賞。アニメ作品やゲーム音楽公式バンド、ゲーム音楽、劇伴などの有名アーティストのライブ、ツアー、レコーディングに参加。					
授業概要						
<ul style="list-style-type: none"> <li>ベースに必要な機材を学ぶ。</li> <li>楽譜について学び、音楽家に必要な知識を学ぶ。</li> </ul>						
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>ベース本体の特徴や代表的なエフェクター、アンプ仕組みを理解し、自分のプレイスタイルに合ったベースを選べるようにする。</li> <li>ベースに関する職業を知り、必要な知識を学ぶ。</li> </ul>						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	イクイップメントⅠ ・ベースの歴史 ・ベースの種類 ・ベースの調整法					
【前期】 6～9回目	イクイップメントⅡ ・ケーブルの種類 ・アンプの使い方、種類					
【前期】 10～15回目	イクイップメントⅢ ・エフェクター(ダイナミクス) ・エフェクター(歪み) ・エフェクター(空間系)					
【前期】 16～19回目 (前期試験)	イクイップメントⅣ ・前期内容を組み合わせた音作り 「前期試験」					
【後期】 21～24回目	音楽の仕事について ・実演家 ・講師 ・作編曲					
【後期】 25～30回目	楽譜の読み書きⅠ ・スコア、パート譜 ・聴音					
【後期】 31～40回目 (前期試験)	楽譜の読み書きⅡ ・リードシート ・聴音 ・後期試験対策&後期試験					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	ベーストにとって自分だけのオリジナルサウンドで表現できることは、とても強い個性をアピールできます。さらに、職業ベーストとして求められた時の対応力をつけるために、知識は必要です。積極的に学びましょう。					
使用教科書	習得する内容に合わせて、随時テキストデータをPDF形式で配布。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	奏法実技(右手)		授業形態/必・選	実習	必修
		ベースフィジカル		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ベースコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	バンドでCDメジャーリリース、2023年秋にはヨーロッパツアーを行う。 バンド活動の他、ライブサポートやレコーディング、楽器屋の教則動画の講師、楽器機材メーカーモニターも務める。					
授業概要						
楽器演奏において必要なフォーム、奏法、持久力を鍛える。 理論に基づいて様々な楽曲に対応できるように演奏力を養う。						
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間の演奏を可能にするフォームの習得</li> <li>・様々な調号とコードに対する知識の習得</li> </ul>						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	リズムトレーニング ・クリックを使ったトレーニング ・2finger、ピック弾き、Slapのフォーム確認					
【前期】 7～10回目	クロマティックトレーニング ・左手のフォームづくり ・右手の持久力アップ					
【前期】 11～15回目	インターバルトレーニング ・Cメジャー・スケールを使用したスケール練習 ・インターバルを確認しながら2度から10度までのトレーニング					
【前期】 16～20回目 (前期試験)	サークルオブフィフスを使ったアルペジオ ・メジャーコードアルペジオ ・マイナーコードアルペジオ					
【後期】 21～25回目	様々なポジションでのスケール ・ペンタトニックスケール ・メジャースケール、マイナースケール					
【後期】 26～29回目	ミュートトレーニング ・音価、休符の感覚の獲得					
【後期】 30～32回目	コード展開アルペジオ ・1st Inversion, 2nd Inversion, 3rd Inversionでのアルペジオ					
【後期】 33～39回目 (後期試験)	ディグリーアルペジオ ・様々なキーでのアルペジオトレーニング					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	誤ったフォームで演奏をし続けると、手首を痛めたりする原因となります。正しいフォームをしっかりと身につけた上で、理論も学びながら、持続力を鍛えるトレーニングをしましょう。様々なジャンルの楽曲演奏に必ず活かせる基礎スキルとなります。					
使用教科書	習得する内容に合わせて、随時テキストデータをPDF形式で配布。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	イクイップメント		授業形態/必・選	講義	必修
		理論		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギター/ベース/ドラム/ギターヴォーカル					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経験33年 ギター演奏を中心に多数のレコーディングやアーティストサポート、アーティストへの楽曲提供、劇伴、作編曲、楽曲プログラミング、教則本の執筆やトレーナーなど活動は、多岐に渡る。					
授業概要						
音楽に関する基礎的な音楽理論(ベーシックセオリー)を学び音楽に対する基礎的な知識を身に付け、楽曲制作や演奏する楽曲の理解や実演奏へのフィードバックさせる為の授業内容になっています。						
到達目標						
アーティスト、演奏家にとって大事な共通言語とされる基礎的な音楽理論の理解を深め自己の演奏に反映させ修得出来る事を目指す。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	<b>基礎知識(1)</b> ・音楽記号、・拍子記号、・音名、・音符、休符・音の高さ ・調号、Keyに付いて、#系とb系(1)、・Tone Interval(1)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減)					
【前期】 6～10回目	<b>基礎知識(2)</b> ・調号、Keyに付いて、#系とb系(2)、・Tone Interval(2)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(1) I - II - III - IV - V - VI - VII・サークルオブフィフス(五度圏)・コードネームの表記方法(1)					
【前期】 11～15回目	<b>基礎知識(3)</b> ・調号、Keyに付いて、#系 b系(3)・Tone Interval(3)1度、2度、3度、4度、5度、6度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(2)、I - II - III - IV - V - VI - VII、・Major Scale上出来る三声、四声和音・コードネームの表記方法(2)					
【前期】 16～22回目 (前期試験)	<b>Diminished(減5、減7)音程、Augment(増5)音程から出来る和声とは、 / Chord FunctionからDominant Motion / Secondary Dominant</b> ・Diminished Chord、Augment Triad Chord・ダブルフラット、ダブルシャープ ・Chord Function(1)・Dominant Motion(1)・導音、トライトーンとは、何か、・Secondary Dominant(1)二次的なDominantとは？					
【後期】 23～25回目	<b>ケーデンスについて</b> ・ケーデンスのパターン Tonic Sub Dominat Dominantの進行パターン ・Dominant Motion (2)・Secondary Dominant(2)Secondary Dominantを使ってみる					
【後期】 26～30回目	<b>転調のパターン / コードプログレッション</b> ・平行調、同主調、近親調、遠隔調・各調へのコードプログレッションなど ・Dominant Motion(3)・Secondary Dominant(3)					
【後期】 31～35回目	<b>Tonic minor Scaleとは(1)</b> ・Tonic minor3種(Natural, Harmonic, Melodic) ・Natural, Harmonic minor Scale上に構築されるダイアトニックコードとDegree(度数)					
【後期】 36～39回目 (後期試験)	<b>Tonic minor Scaleとは(2)</b> ・Natural minor, Harmonic minor, Melodic minor Scale上に構築されるダイアトニックコードとDegree(度数) ・Natural, Harmonic, Melodic上に構築されるダイアトニックコードダイアトニックコードとDegree(度数) / コードプログレッション					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	不変的な基礎音楽理論を理解する事で、楽曲に対しての構造や造詣を深める事が出来ますので、是非、修得して自己の音楽活動、楽曲構築、アレンジへのフィードバックが出来る嬉しく思います。					
使用教科書	必要に応じ適宜PDFにて配布、タブレット端末、五線紙(五線紙ノート)、筆記用具を持参する事。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ベース基礎実技		授業形態/必・選	実習	必修
	ベースベーシックⅠ			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ベースコース、サウンドクリエイターコース(選択)					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経験3年 学生時代にESPでベーシストグランプリを受賞。卒業後、レコーディングやサポート業を開始。 現在は音楽レッスンスタジオを開業し経営しつつ、様々なアーティストやゲームミュージックなどのバックバンドやレコーディングに参加し、サポートベーシストとして活動中。					
授業概要						
ベーシストとしての基礎を固めるために、右手左手のフォーム、運指練習、音符(休符)の長さ、ミュート、様々なジャンルに対するベースラインの構築などベーシストとして活動する上で必要な基礎知識の習得。						
到達目標						
基礎実技、知識の習得。 ・初見で譜面を見て、書かれている音符を正確なリズムや音程で弾ける。 ・多様な奏法に対応できる能力(オクターブ、タッチミュート、レイキング等) ・様々なジャンルの音楽に対してのベースライン構築の理解と研究						
授業計画・内容						
【前期】 1～3回目	基本的なフォーム、リズムパターン、基礎運指練習 ・ベース本体、右手左手の基本フォーム ・様々な音符や休符の長さの理解 ・多様な楽曲に対応するための基礎運指練習					
【前期】 4～9回目	様々なベースライン① ・全～8分音符(休符)まで+付点、タイ、スタッカートが使用されているフレーズ、ブルース進行の譜読みと演奏。					
【前期】 10～16回目	様々なベースライン② ・16分音符(休符)、シンコペーション、オクターブ、シャッフルの譜読みと演奏。 ・ハンマリングやタッチミュートのトレーニング					
【前期】 17～22回目 (後期試験)	様々なベースライン③ ・4ビートでの4分音符ランニングベース ・3連符ベースラインフレーズ					
【後期】 23～26回目	様々なベースライン④ ・ピッキングミュート、ゴーストノートを使用したフレーズの演奏 ・レゲエフィールのベースライン					
【後期】 27～33回目	様々なベースライン⑤ ・小節をまたぐシンコペーションや3拍フレーズでのシンコペーションのフレーズ演奏 ・16ビート1発モノのランニングベースの演奏					
【後期】 33～36回目	様々なベースライン⑥ ・3連符4つ割りフレーズの演奏 ・16分弦跳びアルペジオの3つ割りフレーズの演奏					
【後期】 37～39回目 (後期試験)	様々なベースライン⑦ ・多様な拍子(3/4,6/8,5/4,8/7)のフレーズを演奏					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	バンドやお仕事をする上で、基礎的なスキルや知識は必要になっていきます。 その為に多様なリズムやジャンルを研究し自分のものにして、将来に生かしていきましょう。					
使用教科書	総合カリキュラムⅠ					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブルⅠ(前期/後期)	授業形態/必・選	実技 必修	
	アンサンブルⅠ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	80回(160単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験14年 自身の活動として楽曲配信やロイヤリティを発売、Youtubeにおいてはレッスン動画や業界の知識を配信等、積極的に活動。またエンジニアとしても活動しておりミックスやマスタリング、そして作曲等も全て自主でこなし、楽曲提供や数々の著名なヴォーカリストと共演。				
授業概要					
コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル=ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲のアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～③課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。					
到達目標					
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を通じ、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。					
授業計画・内容					
【前期】 1～32回目	<p><b>アンサンブルとは何か</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認</li> <li>アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介</li> <li>各パートのセッティング方法</li> <li>読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。</li> </ul> <p><b>課題曲①～④</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既成楽曲(課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲)を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。</li> <li>互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。</li> <li>アレンジ(キープやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。</li> <li>リズムの感じ方及び取り方を合わせる。</li> <li>題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い「譜面」に反映させる。</li> <li>聞き手を意識したトータルプロデュース。</li> </ul> <p><b>アンサンブルフェスティバルへ向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。</li> <li>アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりリハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。</li> <li>スムーズな転換の手順を確認。</li> <li>音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。</li> <li>ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。</li> </ul>				
【前期】 33～38回目	<p><b>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>セット図の書き方を学び、作成する。</li> <li>アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。</li> <li>本番を想定した演奏動画の撮影を行う。</li> </ul>				
【前期】 39～40回目 (前期試験)	<p><b>半期のまとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。</li> </ul>				
【後期】 41～74回目	<p><b>アンサンブルとは何か</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認</li> <li>アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介</li> <li>各パートのセッティング方法</li> <li>読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。</li> </ul> <p><b>課題曲①～④</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既成楽曲(課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲)を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。</li> <li>互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。</li> <li>アレンジ(キープやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。</li> <li>リズムの感じ方及び取り方を合わせる。</li> <li>題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い「譜面」に反映させる。</li> <li>聞き手を意識したトータルプロデュース。</li> </ul> <p><b>アンサンブルフェスティバルへ向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。</li> <li>アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりリハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。</li> <li>スムーズな転換の手順を確認。</li> <li>音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。</li> <li>ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。</li> </ul>				
【後期】 75～76回目	<p><b>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>セット図の書き方を学び、作成する。</li> <li>アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。</li> <li>本番を想定した演奏動画の撮影を行う。</li> </ul>				
【後期】 77～80回目 (後期試験)	<p><b>半期のまとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。</li> </ul>				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	楽器やシールド・チューナー・エフェクターは自身の物を持ち込みましょう！※外部では持ち込みが常識です。1クール間(課題曲が切り替わるまで)はレンタル可。コミュニケーションが音楽業界では第一、その大事さと、現代における人の関わり方や他人への興味を養う。講師に頼るばかりではなく、学生間で情報を伝達するなどアンサンブルメンバーの一人としての自覚と責任を持ちましょう。今後の人生を豊かにするために他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。生音の体感やアンサンブルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場ですので、楽しみながら皆で盛り上げていきましょう！				
使用教科書	学校内作成のマスター譜や譜面				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択DAWI (前期/後期)	授業形態/必・選	講義	必修
	DAWI		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース・ギターヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。また、アイドルや声優の楽曲や CMのサウンドロゴの作編曲。MIX MASTERINGまで自身で行い、ライブではマネージャーとしての活動も行っている。				
授業概要					
DAW(mac&Logic)でのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。					
到達目標					
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるようになる)知識、実践方法を学ぶ。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	<b>PCの操作方法の指導、Logic Pro Xの操作方法の指導</b> ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法 ・簡単なループを組み合わせた制作法を学ぶ				
【前期】 6～10回目	<b>各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導</b> ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解				
【前期】 11～20回目	<b>ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解</b> ・各楽器を理解し、4小節(16小節+α)の課題曲の作成				
【前期】 21回目～22回目 (前期試験)	<b>「前期試験対策」</b> ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習				
【後期】 23回目～36回目	<b>各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成</b> ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ				
【後期】 37回目～38回目	<b>ツーマックスのバウンス作業</b> ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)				
【後期】 39回目～40回目 (後期試験)	<b>「後期試験対策」</b> ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	今や楽器を持つ人(ヴォーカル含む)に必要な現代音楽の作成ツールであるDAWを知ること、使うことはとても大事です。バンドだけ…演奏だけ…ではなく、「創る楽しみ」も同時に学び、今後の時代の発展に合わせた作曲やサウンドデザインを心がけ、オリジナリティあふれる作品を創ってください。				
使用教科書	各講師オリジナルの教材の使用 必要に応じ適宜PDFにて配布、タブレット端末、五線紙(五線紙ノート)、筆記用具を持参する事。				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	楽曲実技		授業形態/必・選	実習	必修
	ベースストパフォーマンスⅠ			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ベースコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経歴9年。 ESPエンタテインメント東京を卒業後、自身のバンド運営・活動、ライブを中心としたアーティストサポートを開始。俳優・声優のベースレッスン、パフォーマンス指導なども行っている。					
授業概要						
社会人、アーティストとして知っておきたい知識や基礎的なスキルを学び実践。クラス内のディスカッションも交えて、バンド活動において重要な、人とのコミュニケーションの取り方、自己アピール力を養う。ベースコースイベントで使用する音源制作を通して、DAWの基礎知識を養う。						
到達目標						
社会人、アーティストとして必要な、以下に示す知識・スキルの習得。 ・セルフプロデュース:基本的なSNSの活用、音楽業界を中心とした対人マナー ・バンド運営方法:バンド運営の心得、ライブに必要な知識、コミュニケーション力 ・DAWを使用した基本的な音源制作(※ベースストパフォーマンスで使用)						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	自己分析、目標設定、プロフィール作成 ・自己紹介→自分を見つめるための簡単な年表作り→年表を元にしたプロフィール作成 ・自分のやりたいことを書き出し、目標を設定→目標達成シートの作成					
【前期】 6～10回目	バンド運営マニュアル【初級編:バンドを始めたら】 ・バンドプロフィールの作成:メンバーの魅力を伝えることで分析力・プレゼン力を養う ・スタジオレンタル方法、セッティングの基本、譜面アプリの活用方法 ・メールの書き方、各種データのやりとりの方法、PC用語の説明					
【前期】 11～16回目	SNS・配信の活用 ・主要SNSと配信アプリ、そのメリット・デメリットの紹介 ・自分が狙いたい層を踏まえてSNSで新規アカウント作成→年度末まで運用してみる ・SNSに載せるためのショート動画作成					
【前期】 17～22回目 (前期試験)	バンド運営マニュアル【中級編:ライブ基礎知識】※アンサンブル発表会で活用 ・用語の説明、ライブハウス提出書類・セット図の書き方、リハーサルのやり方 ・ライブ出演の方法、ライブハウスの仕組みとは ・発表会の見所アピール:プレゼン力・集客力を養う					
【後期】 23～28回目	バンド運営マニュアル【上級編:集客・告知の実践】※ペーパーバンドのイベント告知にも活用 ・Canvaを使ったイベントフライヤーの作成 ・イベント告知動画の作成 ・音源制作フォロー					
【後期】 29～33回目	ペーパーバンドに向けて①パフォーマンス研究 ・春に作った資料を元に、自分の魅力を引き立たせる衣装の選定、ステージング研究 ・音源制作フォロー					
【後期】 34～38回目	ペーパーバンドに向けて②ゲネプロ ・前テーマで決めたステージングを意識して教室内で発表、撮影→クラス内でよかった点や改善点など意見を出し合い、お互いをプロデュースする ・音源制作フォロー					
【後期】 39～40回目 (後期試験)	1年間のまとめ・実践:アンサンブル発表会(+プレイヤーズコンテスト)に向けて ・イベントに必要な資料作成、告知材料の作成→告知を実践 ・パフォーマンス研究→クラス内でゲネプロ、お互いの改善点など意見を出し合う ・授業開始当初に設定した目標の振り返り、運用してきたSNSの分析					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	スタジオミュージシャンやバンドデビューを目指す人にとっても、まだ将来を決めかねている人にとっても、自分を知り、その魅力を伝えていくことはとても大切です。その上で必要な知識やスキル、実際の現場で使えるノウハウを紹介します。話しやすい、聞きやすい授業を作っていくので、一緒に学んでいきましょう!					
使用教科書	学内作成オリジナル教科書の使用。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ベース基礎知識	授業形態/必・選	講義	必修
	リズムトレーニング		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験38年 単身ヨーロッパ各地でのギグに参加し、ジャンルに拘らず、ジャズはもちろんのことフュージョン、ロック、ラテンと幅広いリズムに精通するオールマイティ。自身のバンドのリーダーとして都内を中心にライブ活動を展開中。				
授業概要					
音楽の三大要素「リズム」にまつわる感覚と知識を、担当楽器によるリズムレ・アセスメントとアカデミー講義から学ぶ。					
到達目標					
専科の楽器演奏の際にBeatをコントロールする感覚とtempoのキープ、そしてFeelのマニピレイトを実現する。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	「4分音符アセスメントとリズムの概要」 ・4分音符のテンポキープのアセスメント(J=60～120)・リズムとは何か ・Beatとは何か ・Beatリズムの世界分布と価値 ・リズム哲学 ・メトロノームの使い方				
【前期】 6～10回目	8分音符アセスメントとBeatとFeelの分類 ・8分音符のキープアセスメント(J=60～120)・8分音符の裏キープアセスメント ・BeatとFeelとは何か ・Feelの種類 ・ノリの構造分解(縦・横)				
【前期】 11～15回目	16分音符アセスメントとスピード感 ・16分音符のキープアセスメント(J=60～120) ・フロント・ジャスト・ビハインド ・16分の裏キープアセスメント ・テンポとスピード感の違い ・Feelとスピードのリレイション ・ダブルタイム ・2Beat ・4Bbeat				
【前期】 16～20回目 (前期試験)	3連と6連のアセスメントとFeelとBeatのキャッチボール ・3連符のキープアセスメント(J60～120) ・3連の裏キープアセスメント ・音源によるFeelとBeatの聴覚レッスン ・FeelとFILL INのリレイション				
【後期】 21～25回目	トランスフォーメーション、Beatリズムの歴史 ・各種音符のチェンジアップとアセスメント、Beatリズムの起源と因果 ・黒人音楽 ・ジャンルとFeelのリレイション ・スピリチュアル ・ダンス ・タメともたり、ツッコミと走り。				
【後期】 26～30回目	シンコペーションのアセスメント、プログレス・リズム講① ・シンコペーションキープのアセスメント。 ・Jazz・Classic Blues・Country Blues・Gospel・City Blues・Chicago Blues・Jump Blues・R&B				
【後期】 31～34回目	アドバンス・リズムのアセスメント、プログレス・リズム講② ・シャッフル・リズムの実践とアセスメント。 ・doo-wop ・Modern Jazz ・Modern Blues ・R&R ・Soul ・Norther Soul ・Southern Soul ・Motown ・Stax ・Atlantic				
【後期】 35～39回目 (後期試験)	アーティキュレーション、プログレス・リズム講③ ・包括的総合実習とアセスメント。 ・Funk・Modern Soul・70年代MOTOWN・Sweet Soul・Modern Gospel・Fusion・Disco・Garage ・Black Contemporary・Rap(Hip・Hop)・Contemporary R&B				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	Beatリズムのノリの仕組みを、構造化しリズムトレーニング。 またリズムの起源と進化の過程からジャンルとリズムの関係性を明らかにする。自分のBeatを出せる様に。				
使用教科書	必要に応じ資料・プリントを配布				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	奏法実技(左手)		授業形態/必・選	実習	必修
	ベースアーティキュレーション			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ベースコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経験17年 様々な楽器の演奏をこなし、自身のバンドにおいては国内外を問わずライブ活動を展開中。数多くの大型野外フェスティバルにも出演経験あり。劇団四季ミュージカルライオンキングに10年以上に渡り出演中。					
授業概要						
他授業で学んだ基本的な奏法等を実際の演奏の中でどのように使用するか、また、効果的なニュアンスを出す方法論を学ぶ。 様々なリズムパターン、ビート、フレーズにおいて、それぞれに対して効果的なベースラインを構築する為の分析。						
到達目標						
出したいサウンドやフレーズを正確に演奏出来るスキルを磨く ・奏法技術の向上と応用 ・様々なジャンルで演奏されるフレーズの特徴の分析 ・どういった演奏方法をとれば出したいサウンドになるかの研究						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	サウンドコントロール ・音量コントロール(ピアノシモからフォルティッシモ) ・音色コントロール(ピッキングポイントやタッチコントロール)					
【前期】 6～10回目	左手のテクニックの応用 ・ハンマリング&プリング ・スライド、グリス ・ヴィブラート					
【前期】 11～15回目	右手のテクニックの応用 ・指弾き ・ピッキング ・スラップ 上記3つを使用したフレージング					
【前期】 16～20回目 (前期試験)	様々なビートに対するアプローチ ・8beat ・16beat ・3連系					
【後期】 21～25回目	フレージング ・ゴーストノートの使い方 ・和音フレーズ ・ミュートの使い方					
【後期】 26～30回目	ジャンルの違いによるフレーズの特徴 ① ・ロック ・ファンク					
【後期】 31～35回目	ジャンルの違いによるフレーズの特徴 ② ・アフリカン ・ラテン ・レゲエ					
【後期】 36～40回目 (後期試験)	他の楽器のニュアンスのつけ方を学ぶ ・ギター ・管楽器 ・歌					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	習得した技術や知識は効果的にアウトプット出来てこそ意義があります。この授業でその方法論を学び、センスを磨きましょう。そして、まだこの世にない新しい自分の音楽の表現に役立ててください。					
使用教科書	必要に応じてプリント等を配布。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	分野別講座	授業形態 / 必・選	講義	必修
	分野別講座		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科、芸能タレント科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経歴25年 高校時代よりバンド活動を行う。専門学校にて学んだ後、1998年レコーディングスタジオに就職し、数々のアーティストの音楽制作業務に携わる。				
授業概要					
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。					
到達目標					
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	・発声の基礎知識 歌唱、台詞(滑舌)
【前期】 3～8回目	・楽器の基礎知識 ギター、ベース、ドラム、キーボード、管楽器、ピアノ
【前期】 9～15回目	・音楽活動における基礎知識 譜面の読み方・書き方、リハーサルスタジオの使い方、楽器メンテナンスの方法
【前期】 16～19回目	・イベントの基礎知識① PA、照明、レコーディングの基礎知識。 イベント資料の作成方法。
【後期】 20～23回目	・イベントの基礎知識② ライブ、レコーディングの進行方法
【後期】 24～28回目	・音の基礎知識 電源、マイクの原理、音の仕組み、デジタル変換
【後期】 29～32回目	・パソコンの基礎知識 スペック、オーディオ、ピクチャ、ムービーについて
【後期】 33～38回目	・卒業後の進路に向けて デビュー、就職
評価方法	レポート提出状況・内容によって評価
学生へのメッセージ	今の時代、ある程度の事は自分一人で出来るスキルが求められます。「興味がない、関係ない」で終わらせず、自分自身の為に学ぶという意識を持って取り組んでください。
使用教科書	習得する内容に合わせて、随時テキストデータをPDF形式で配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アーティスト実地演習 I		授業形態 / 必・選	演習	必修
	アーティスト実地演習 I			年次	1年次	
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	7回(28単位時間)	年間単位数	1単位	
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。					
授業概要						
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。						
到達目標						
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。						

授業計画・内容	
1回目～5回目	ESP学園主催イベント①～⑤
6回目	コースイベント
7回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボード I (前期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボード I (前期)		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	<p>実務経験24年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。</p>				
授業概要					
キーボードの初歩的な演奏方法と、音楽理論を習得する。					
到達目標					
コード演奏およびアルペジオでの演奏を習得したうえで、左右とも違う運指可能となる。					

授業計画・内容	
1～2回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
3～4回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
5～8回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
9～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～20回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボード I (後期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボード I (後期)		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
キーボードの初歩的な演奏方法と、音楽理論を習得する。					
到達目標					
コード演奏およびアルペジオでの演奏を習得したうえで、左右とも違う運指可能となる。					

授業計画・内容	
1～2回目	キーボードの機能について学ぶ。スケール練習を中心に練習。 ダイアトニックコードについて知り、それを課題曲演奏に活かす。
3～4回目	スケール練習の継続、リズムやテンポを変えた練習。 コードの転回形を学ぶ。
5～8回目	リズムパターンのはっきりしたベースラインを演奏する。 あわせて右手でコード演奏を行い、形にする。
9～12回目	課題曲をもとに反復練習、必要に応じて講師による講評
13～16回目	ピアノの特性を活かしたイントロ演奏。コードをアルペジオに変えた演奏。
17～20回目	アルペジオ演奏を通じて、運指のトレーニング。 一人で左右とも異なった動きができるよう反復練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。